

平成23年（2011）8月11日

総理大臣 菅直人 様

三陸の海を放射能から守る岩手の会会員一同

北海道電力泊原発3号機の運転中止を求めます

日頃国民の生活を重視し、国政へのご尽力に敬意を表します。

さて、現在定期点検中とされている北海道電力(株)泊原発3号機について、総合負荷性能検査が10日に終了し原子力安全委員会の審議を経て営業運転再開の方向で進められていると聞いています。

私達が住む岩手県においても福島第一原発事故放出放射能により、農業を中心に大きな被害が広がっています。現地福島県においてはさらなる大被害により多くの人々・子どもたちが安全な地を求め避難しています。撒き散らされた放射能によるガンなど人体への影響は数年後から出てくると思われます。「原発は安全」と人々に思い込ませ進めてきた人達は誰一人その責任をとろうとしておりません。

そして、いまだ原発事故が継続中であり、その検証もないままにエネルギー不足ということで地元道民の意思を尊重せずに泊原発を動かそうとしています。今回の事故で人間は原子力を安全に制御できないということがはっきりわかりました。

国は国民の幸せを本当に考えているのか、事故の反省を本当にしているのか、福島県の人々の思いをどう受け止めているのか理解に苦しみます。

国の施策の失敗をまた繰り返し汚染土や犠牲者を増やすようなことはもう絶対にあってはなりません。

以上に鑑み私達は以下の事項を国へ要求します。

要求事項

- 1) 福島第一原発事故の事故調査検証委員会による詳細な報告を国民に公開すること。  
その後国民の判断を仰ぎ、原発稼働の是非を判断すること。  
それまでは定検中の原発の運転を中止すること。
- 2) 福島第一原発事故を招いた規制機関である原子力安全保安院、原子力委員会の責任を明らかにすること。  
両機関が現在のシステムに位置づけられたまま、もしくは委員の責任が曖昧にされたままで既存原発の審査をする資格はありません。
- 3) エネルギーよりも国民の生命・財産・生活・文化を重視すること。  
先祖代々脈々と守り継がれてきた大地を人の住めない汚染地にし、多くの避難民を発生させるようなエネルギーは必要ありません。
- 4) 21世紀は持続可能な環境重視の世紀にすること。  
日本がそのため世界の模範となる国に脱皮していくため、国のリーダーは力を発揮してほしい。

(以上)

問合せ先 三陸の海を放射能から守る岩手の会  
世話人 永田文夫  
岩手県盛岡市山岸6-36-8  
電話・FAX 019-661-1002